様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ６ 月 ２１ 日現在

機関番号：３４４１９
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2015～2017
課題番号：１５Ｋ０２１９３

研究課題名（和文）アングラ演劇の演技と空間――寺山修司と佐藤信の作品をめぐって

研究課題名（英文）Acting and Space of Angura, as represented by Shuji Terayama and Macoto Sato

研究代表者
梅山　いつき（UMEYAMA, Itsuki）

近畿大学・文芸学部・講師

研究者番号：５０５０５４０１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は「アングラ演劇」を代表する作家である寺山修司と佐藤信を取り上げ、それぞれの創作における方法論を見直すことを目的とするものである。寺山研究では、なぜ寺山は「見世物小屋の復権」を唱え、見世物芸の何を創作に取り入れたのか初期作品から明らかにした。佐藤研究ではアンダーグラウンド・シアター自由劇場をかまえた後に、佐藤の初期作品が空間的にどのような変容を遂げたのかを分析した。加えて、関連資料の整理とリスト化、佐藤氏からの聞き取りをすることで、幼少期から劇団自由劇場を旗揚げする20代半ばまでの活動を調べた。研究成果は学会発表や展覧会を通して広く発表することができた。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to review the way of creation of two artists, Shuji Terayama and Macoto Sato, both of whom are representative artists of Angura (Japanese avant-garde theater). Terayama advocated “Misemono Goya no Fukken, the resurrection of the show tent.” What elements did he notice in the performance of Misemono? How did he create his dramaturgy? In this study, I address these questions by analyzing Terayama’s early theater works. As part of my research on Sato, I analyze how his early works changed spatially following his establishment of the Underground Theatre Free Theatre. In addition, I study his activities from the time he was a young boy to when he created his theater company by arranging and listing pertinent materials and examining oral history. Further, I present my research results in academic conferences and exhibitions.

研究分野：日本演劇

キーワード：日本演劇　身体論　現代社会　文化論

１．研究開始当初の背景

1960 年代に誕生した「アングラ演劇」もしくは「小劇場第一世代」と総称される演劇集団およびその作品は、日本の現代演劇の礎を築き、後世に多大なる影響を与えた。しかしながら、学術研究の場でその活動や作品が検証されることは未だ少なく、とりわけ、初期の活動に関しては、資料数の少なさもあって明らかにされていない部分が多い。一方でここ数年、関係者の高齢化が進んでいることから、聴き取り調査や資料の収集が急がれている。

２．研究の目的

本研究では、アングラ演劇を代表する寺山修司と佐藤信を取り上げ、それぞれの創作における方法論を見直すことを目的とした。寺山に関する研究は、他の作家に比べ進んでいるが、劇団旗揚げの頃の活動、特に初期演劇作品に関する研究は未だ充分とは言い難い。佐藤に関する研究は、まとまったものとしてはデイヴィッド・グッドマンによるもののみであり、劇団黒テント以前の劇団自由劇場の頃の活動に関しては資料整理も進んでいない。本研究では以上の未開拓な研究領域を対象にし、さらに異なる演劇論と活動を展開した同時代の作家を比較検証することで、アングラ演劇の歴史的位置付けを見直すことを目指した。

３．研究の方法

以下四つの課題を設け三年にわたって研究を進めた。

① 両名に影響を与えた交友関係と思想的背景：上演関連資料や関係者の証言を収集し、交友関係と思想的背景を調査する
② 拠点劇場落成までの経緯と作品に与えた影響：アンダーグラウンド・シアター自由劇場と天井桟敷館の劇場構造を調査し、空間が作品に与えた影響を作品分析から明らかにする。
③ 演技論・身体論の舞台化および上演によって得られた成果：演技論や身体論がどのように舞台化され、どのような評価を受けたのか明らかにする。
④ 野外における劇空間の構築と演技：拠点劇場で培った方法論が野外劇へと移行する際に踏襲されたのか、もしくは変容した場合にはどのような変化が認められるのか明らかにする。

演劇博物館や日本大学芸術学部演劇学科、そして国会図書館が所蔵する関連資料、および、佐藤個人が所蔵する資料と佐藤からの聞き取り調査をもとに以上について検証した。

４．研究成果

初年度は調査機関の関連資料所蔵状況の調査と、佐藤個人所蔵資料の調査・整理を行った。また、佐藤の幼少期から劇団自由劇場を旗揚げする 20 代半ばまでの活動を調査すべく、佐藤からの聞き取り調査も行った。聞き取り調査では幼少期から今日に至るまでの活動を時系列に沿って語っていただくことで、その時々の交友関係も含め、創作の実態が比較的明らかになった。個人所蔵資料はリスト化し、演劇博物館へ寄贈した。

寺山に関する研究では、彼が劇団結成時に主張していた「見世物小屋の復権」に注目した。寺山はいくつかの演劇論で自身の見世物小屋体験に触れており、映画『田園に死す』において描かれる見世物小屋の一座には寺山がイメージする見世物芸の一端があらわれている。また、初期作品『大山デブコの犯罪』はまさに見世物芸を取り上げ、「見世物小屋」に自己言及する作品である。こうした数々の作品からは寺山の見世物芸と旅芸人一座に対する憧憬を感じ取れるが、寺山自身は同じようなスタイルでテント芝居を展開することはなかった。では、彼は見世物小屋とその一座に何を見出し、自身のドラマツルギーに取り入れたのか。初期作品の分析を通じて考察し、研究成果は"Angura and Misemono culture: Shuji Terayama’s early theatre works."と題し、国際学会 Psi TOHOKU 2015 で発表した。

二年目は、両名のうち、特に佐藤について、彼　に影響を与えた交友関係と思想的背景、および、拠点劇場落成までの経緯と作品に与えた影響といった二点に関する調査を進めた。日本大学芸術学部演劇学科が所蔵する劇団自由劇場に関する資料を調査した結果、劇団の拠点劇場であったアンダーグラウンド・シアター自由劇場の洛西までの経緯と、実際に劇場として使用した後の劇団員たちの反応をうかがい知れる議事録等の資料の存在が明らかになった。アンダーグラウンド・シアター自由劇場は、佐藤を含めた劇団員たちがそれまで使ったことのない小さな空間であり、空間の特性が演技に影響したことも資料に残された証言から浮き彫りになった。劇場は当初備えていた緞帳などの装飾的な部分を取り払い、いわゆるブラック・ボックスに姿を変えていったが、変容の過程は佐藤の初期作品にも影響を与えていた。以上に関する研究成果は、日本大学芸術学部芸術資料館が開催した「1966 年、自由劇場始まりの年」展の展示協力および図録への論文掲載というかたちで発表した。

同年には、演劇博物館で「あゝ新宿――スペクタクルとしての都市」展という新宿文化を取り上げた大規模な展覧会が開催された。寺山の初期活動には新宿での上演も含まれていることから、都市文化として寺山の初期作品を考察し、展示図録に論文を掲載した。

さらに、明治学院大学で開催された国際シンポジウム「アングラ・小劇場の成果と課題――現代演劇の未来に向けて」において、研究発表「アングラ演劇とメディア戦略――演劇センター68『コミュニケーション計画』を中心に」を発表した。本発表では、佐藤たちの集団を中心に、寺山の演劇実験室天井桟敷などの演劇集団が発行していた雑誌やポスターを取り上げたものである。研究会では美術の方面からの影響について示唆的な意見を得ることができた。

以上のように、二年目は初年度から続けてきた初期活動に関する調査を論文や研究発表の形で発表した。三件の展覧会と国際シンポジウムは注目を集めた企画だったため、その場を借りてより広く成果を発表することができた。

最終年度は、主に「野外における劇空間の構築と演技」をテーマに、両名が野外に演劇空間を拡張していくにあたって、どのような変化があったのかを検証した。当初の計画では新しい作品を取り上げる予定であったが、前年までの調査ではまだ明らかにできなかったことを調べることを優先した。寺山については、本研究の初年度から初期作品を分析してきた。そこで問題になった、寺山が「見世物小屋」に抱いたイメージはどのように形成されたのかについてあらためて掘り下げると共に、70 年代に入り、市街劇を展開するにあたってなぜ紅　テントのような仮設劇場を必要としなかったのかを著作を中心とする資料を通して検証した。 佐藤に関しては、まず前年までの調査の延長として、アンダーグラウンド・シアター自由劇場を経験するなかで演劇空間に対するどういった感覚が形づくられていったのかを検証し、それがどのように黒色テントへと引き継がれたのかを考察した。また、新しく開場した佐藤の劇場での活動から佐藤が劇場という空間をどのような場として機能させていこうとしているのかを考察した。

以上のように両名の初期作品や演劇論に関する調査・研究は計画通り進めることができたが、課題③の演技論・身体論に関しては、自由劇場時代の佐藤については分析できたが、それ以外については調査することができなかった。本研究で取り組めなかった課題については今後の研究で引き続き検証したい。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　　3 件）

① 梅山いつき、野外劇の思想――やなぎみわステージトレーラープロジェクト『日輪の翼』に見るしたたかな擬態、シアターアーツ、査読なし、62 号、2017、102−109

② 梅山いつき、定式からの脱出と“イマジネーション・ボックス”の出現――アンダーグラウンド・シアター自由劇場の変容と佐藤信初期作品、1966 年、自由劇場始まりの年展示図録、査読なし、2016、6-13

③ 梅山いつき、スペクタクルとしての都市、スペクタクルを生む都市――新宿演劇の過去と未来、あゝ新宿――スペクタクルとしての都市展示図録、査読なし、2016、86-91

〔学会発表〕（計　　2 件）

① 梅山いつき、アングラ演劇とメディア戦略――演劇センター68「コミュニケーション計画」を中心に、アングラ・小劇場の成果と課題――現代演劇の未来に向けて、明治学院大学、2016 年 12 月 17 日

② Itsuki Umeyama, Angura and Misemono culture: Shuji Terayama’s early theatre works. Psi TOHOKU 2015, 青森県立美術館, 2015 年 8 月 31 日

〔図書〕（計　　0 件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計　　0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　　0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

① 「1966 年、自由劇場始まりの年」展への展示協力。日本大学芸術学部芸術資料館主催、2016 年。

② 「あゝ新宿――スペクタクルとしての都市」展への展示協力。早稲田大学坪内博士記念演劇博物館主催、2016 年。

６．研究組織
(1)研究代表者
梅山 いつき（UMEYAMA, Itsuki）
近畿大学 文芸学部・講師
研究者番号：50505401

(2)研究分担者
なし

研究者番号：

(3)連携研究者
なし

研究者番号：

(4)研究協力者
なし